

# 特集1

## 第29回中国・四国地区天文教育研究会報告 ～天文教育普及研究会 中国四国支部集会～

山根弘也（呉市かがり天体観測館）

### 1. はじめに

2021年2月21日（日）に第29回中国・四国地区天文教育研究会（2020年度中国四国支部集会）を開催しました。これまで中国四国支部では参加者同士の交流を重視して、情報交換の時間が長くとれるようにと、支部会は必ず2日間の時間を確保してきましたが、今回は、コロナ禍ということもあり、初めてのオンライン開催（Zoomを使用）、初めての1日みの開催としました。大切にしてきた直接の交流の場を持ってないという非常に残念な面はありましたが、今までのような直接現地での対面形式ではほとんどご参加いただけなかった遠方の方、他支部の方の参加もあり、オンラインのよい面も大いにありました。

参加者は鹿児島から北海道まで46名（うち中国四国支部28名）、発表は7件（うち招待講演1件）でした。

### 2. 内容

2021年2月21日（日）

■10:00 開会行事（挨拶、自己紹介など）

■10:30 招待講演

☆「はやぶさ2：挑戦の成果と今後」

吉川 真さん（JAXA宇宙科学研究所 准教授）

■11:40 発表・報告1 座長：安藤 徹

☆「天文教育用スカイモニターの運用について」

松山和樹（岡山理科大学）

☆「Mitakaを用いた天文教育の進展」

松村雅文（香川大学）

■13:30 発表・報告2 座長：山根弘也

☆「親子向け宇宙講座からの展開」

伊藤智子（子ども宇宙アカデミー）

☆「発足から3年～日本天文遺産～」

松尾 厚

松村雅文（香川大学）

☆「コロナ禍の山口博物館天文活動の紹介」

岩村和政（山口県立山口博物館）

☆「アマチュアでも楽しめるデータ解析天文学」

森 好平（四国天文協会）

■15:00 閉会行事・諸連絡

■16:00 閉会

■19:00 オンライン情報交換会（自由参加）

実行委員：竹内幹蔵（委員長）、安藤 徹、  
山根弘也

### 3. 招待講演

昨年（2020年）の12月に地球への帰還を果たした小惑星探査機「はやぶさ2」（本体は次のミッションへ移行している）について、ミッションマネージャである吉川真さんに「はやぶさ2：挑戦の成果と今後」というタイトルでご講演いただきました。

まず、小惑星についてこれまでの発見数や特徴、小天体探査の重要性などについてご説明いただき、「はやぶさ2」の話へ入ってまいりました。「はやぶさ2」のミッションについてのお話の中にはミッションの動機や目標だけでなく、「はやぶさ」ミッションや他の探査機のミッションで得た経験をどのように活かしたかなど、とても興味深いお話を聴くことができました。リュウグウについては、地球に持ち帰ったサンプルの解析はまだほとんどなされていない段階であったもののこれまでの

観測で分かったことを中心にお話いただきました。空隙率が 50%以上であることや過去の自転周期との違い、起源、進化史など、もっと時間をかけて聴きたくなるような成果ばかりでした。

次に、地球帰還についてお話いただきました。帰還へ向けた工程やカプセル回収へ向けた準備、管制室の様子、回収の状況、回収後の作業、実際のサンプルの現状と今後の予定をお聴きし、綿密な準備と多くの方との協力によって一つのミッションが成り立っていることを実感しました。

最後に、今後のはやぶさ 2 の計画について簡単にお話いただき、活発な質疑応答の後、講演会は終了となりました。

#### 4. 一般発表

発表件数は例年よりも少なめでしたが、社会教育、一般普及、学校教育の分野をバランスよくカバーしていたように思います。個人的には特に岩村さんの「コロナ禍の山口博物館天文活動の紹介」は社会教育施設として現在のような社会状況の中でどのような取り組みをしていくのかという点でとても参考になりました。

なお、各々の研究発表・報告の詳しい内容については本報告の後に続く記事をお読みください。



図 1 今回の参加者たち

#### 5. おわりに

支部会の開催時期について、もともとはもっと早い時期に開催を予定していましたが、各地のコロナの感染状況や開催形式（対面形式かオンライン形式か）など、様々な情報を加味しながら、最終的な判断を実行委員で行いました。

今回は初のオンライン開催ということもあり、数日前に発表者を中心としたリハーサル（接続テスト）を行うなど、いつもにも増してしっかりとした準備をしてから当日に臨みました。それでも、一度だけ発表者が変わるタイミングで手間取りましたが、それ以外は特に問題なくスムーズに会を進めることができましたと思います。また、質疑応答については質問者がチャットに書き込んだものを座長が代読し、発表者が答えるという形を取りました。

残念ながら、直接顔を合わせてとはいきませんでした。オンライン上でも支部メンバーの様子が伺えたこと、また支部以外の多くの方に参加いただけたことは今回の支部会での成果だと感じています。

最後に今回の支部集会を開催するにあたり、多大なご協力をいただいた事務局のみなさま、ご講演いただいた吉川真さん、参加者のみなさま、その他関係のみなさまにこの場を借りてお礼申し上げます。



山根 弘也